

## IHCSA 主催「定例講演会」開催

平成 29 年 6 月 13 日（火）、当協会は国際相互理解促進事業の一環として「定例講演会」を六本木の国際文化会館で開催し、100 名あまりの方々にご参加いただきました。

今回は、国宝等の補修で歴史ある小西美術工藝社の代表取締役で、『新・観光立国論』がベストセラーになるなど、日本の観光が目指すべき姿に関して多くの著書を出版されているデービッド・アトキンソン氏をお招きして、『日本の観光立国～課題と展望～』というテーマで講演いただきました。

まず初めに、観光産業の規模は世界の GDP の 10% に達しており、12 億人近い観光客が 144 兆円以上を使っているマーケットであると話されました。

次に国際観光の目的地となるための重要な要素として、①自然、②気候、③文化、④食事という 4 つを挙げ、日本はこれらの要素に多様性がある非常にまれな国であると指摘されました。これは世界一の観光大国であるフランスと同様であり、そこにこそ日本のポテンシャルを見ることができ、観光客にとっては「おもてなし」や「治安の良さ」などは必ずしも重要な要素ではないと強調されました。

また日本が 2020 年までにインバウンド 4,000 万人を目指すのであれば、最も潜在力が高いのはアジアではなくヨーロッパであり、しっかりとデータを分析した上で、欧州人に対する戦略的なマーケティングが必要だと述べられました。文化的な観光要素については、例えば外国人の入場が大変多い京都の貴重な文化財でも、外国語による解説が不十分で高い満足が得られず、また修学旅行生に対するような禁止事項の掲示が多くて、外国人から見ると、あまり歓迎されていないのではないか、と思えてしまうような現状を例示されました。欧州人は文化にも高い関心を示すが、それ以上に自然観光に対する期待が高く、富士山や桜といった文化に絡めた自然のプロモーションだけでなく、自然体験的な観光に関する発信が今後重要になるとも述べられました。

講演会終了後のアンケートでは、「外国人（観光客）目線での指摘がとても参考になった」、「通訳案内士の果たすべき役割が見えてきた」、「日本の観光資源が非常に魅力的でありながら、宝の持ち腐れになっていることに気が付かされた」などの感想が寄せられました。



#### 【デービッド・アトキンソン氏プロフィール】

株式会社小西美術工藝社代表取締役社長。奈良県立大学客員教授。三田証券社外取締役。元ゴールドマン・サックス金融調査室長。

1965年イギリス生まれ。オックスフォード大学（日本学専攻）卒業後、大手コンサルタント会社や証券会社を経て、1992年ゴールドマン・サックス証券会社入社。大手銀行の不良債権問題をいち早く指摘し、再編の契機となった。同社取締役を経てパートナー（共同出資者）となるが、2007年退社。同社での活動中、1999年に裏千家に入門し、2006年に茶名「宗真（そうしん）」を拝受。

2009年に創立300年余りの国宝・重要文化財の補修を手掛ける小西美術工藝社入社、取締役に就任。2011年代表取締役会長兼社長、2014年に代表取締役社長に就任し現在に至る。

2016年財界「経営者賞」受賞。

著書は『新・観光立国論』（山本七平賞、不動産協会賞、東洋経済新報社）、『新・所得倍増論』（東洋経済新報社）など多数。

政府への提言を続ける一方、各地の観光振興のため奔走し、2015年から対外経済政策研究会委員、京都国際観光大使、明日の日本を支える観光ビジョン構想会議委員、2016年から東京の観光振興を考える有識者会議メンバー、行政改革会議歳出改革ワーキンググループ構成員、迎賓館（迎賓館赤坂離宮・京都迎賓館）アドバイザー、二条城特別顧問、日光市政策専門委員などを務めている。